

父親の「産後うつ」防ぐ 信大 周産期の専門外来開設



外来担当の村上医師

信大病院（花岡正幸院長）がこのほど、周産期の環境変化による父親のメンタル不調を専門とした「周産期の父親の外来」を開設した。心身の不調や生活面の不安などに対して産前産後で一定の支援を受けられる妊産婦とは異なり、支援側の専門職や機関と接触する機会が少ない父親の困りごとをすくい上げ、メンタル不調の重症化を防ぐ狙いがある。外来を担当する村上寛医師は「父親の『産後うつ』重症化を防ぐことが妊産婦のうつを防ぐことにつながる」と話している。（中川久美子）

信大医学部は2022 堂創業者の伊藤雅俊氏1年に、イトーヨーカ による寄附講座「周産

期のこころの医学講座」を開設。合わせて信大病院に「周産期のこころの外来」を設け、産婦人科や小児科、精神科などが連携して妊産婦の心のケアを行ってきた。ニーズは多く、23年には産科病棟の初診を除いた妊産婦の初診が150人

に上った。

こうした妊産婦のケアを行う中で村上氏は、環境変化のストレスなどによりメンタル不調を抱える父親たちの存在を確認してきたと話す。妊産婦に比べて支援側との接触機会が少なくことに加え、コロナ禍で両親学級や立ち合い分娩がなくな

ったことで、父親の抱える問題は一層見えにくくなったとし、同外来を拡大する形で新たな枠組みを設けた経緯を説明した。「父親の『産後うつ』と母親の『産後うつ』は正の相関関係にある、との研究報告がある。男性育休制度が充実する中で、職場から育児への急な環境変化などがストレスとなり

うつ状態になる父親が増える可能性も予測している」（村上氏）とし、父親への支援の必要性を強調。一般精神科の初診待ちが長期に及ぶ現状も踏まえ、早期に十分なメンタルサポートを受けられる体制を整えた。

「父親の外来」は予約制で週1回開設。一般的なうつ病対応に加え、育児を始めたばかりの状況を考慮して、家族の役割や生活環境を調整するなどの対応を行う。